



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月31日

上場取引所 東 大

上場会社名 日本ケミカルリサーチ株式会社
コード番号 4552 URL <http://www.jcrpharm.co.jp>

代表者 (役職名) 取締役会長兼社長 (氏名) 芦田 信
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 萬谷 哲志
四半期報告書提出予定日 平成24年11月12日 配当支払開始予定日

TEL 0797-32-8591
平成24年12月10日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	6,625	3.8	374	△34.3	377	△27.9	210	△35.3
24年3月期第2四半期	6,382	△9.3	570	△45.5	523	△48.2	324	△46.4

(注)包括利益 25年3月期第2四半期 184百万円 (0.5%) 24年3月期第2四半期 183百万円 (△48.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
25年3月期第2四半期	6.62	6.60
24年3月期第2四半期	10.07	10.04

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
25年3月期第2四半期	30,580		22,674		73.7
24年3月期	28,967		22,633		77.8

(参考)自己資本 25年3月期第2四半期 22,545百万円 24年3月期 22,535百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
24年3月期	—	6.00	—	6.00	12.00
25年3月期	—	6.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	6.00	12.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	13,700	6.7	1,250	14.7	1,250	24.3	720	13.6	22.70

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

(注) 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更と区分することが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料P.3「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期2Q	32,421,577 株	24年3月期	32,421,577 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

25年3月期2Q	695,608 株	24年3月期	717,394 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期2Q	31,717,740 株	24年3月期2Q	32,222,336 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
4. その他	10
研究開発品目	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におきましては、本年4月に業界平均6%の薬価引き下げが実施されたなか、当社グループにおきましては積極的な販促活動を展開いたしました。主力製品であるヒト成長ホルモン製剤「グロウジェクト」については、本年7月に専用新型電動式注入器「グロウジェクター2」の発売および本年8月の「子宮内発育遅延性低身長症」効能追加の承認取得に合わせた重点的なプロモーションを展開いたしました。また、包括医療制度が実施されている透析医療分野において、診療報酬が引き下げられたことでより安価な薬剤への需要が一層高まったことを背景に、販売提携先であるキッセイ薬品工業株式会社とともにバイオ後続品である腎性貧血治療薬「エポエチンアルファBS注JCR」を積極的にアピールしてまいりました。

研究開発面におきましては、ヒト間葉系幹細胞(MSC)の臨床第Ⅱ/Ⅲ相試験を引き続き進展させました。MSCは、技術導入元である米国オサイリス社が本年5月にカナダで、6月にニュージーランドでそれぞれ販売承認を取得しており、日本においては当社が承認申請に向けて開発を進めております。また、昨年度より注力してまいりましたグローバル品質保証体制の構築が完了し、グラクソ・スミスクライン・グループとの提携品目であるライゾゾーム病治療薬の治験薬製造を開始いたしました。

これらの結果、医薬品事業におきましては本年4月の薬価引き下げの影響を吸収し、主力製品である「グロウジェクト」および「エポエチンアルファBS注JCR」がともに販売数量を順調に伸長させたことにより、売上高はそれぞれ42億62百万円(前年同期比1億22百万円増)、10億64百万円(前年同期比2億36百万円増)となりました。このほか、尿由来製品群および契約金収入が前年同期比で減収となりましたが、抗がん剤原体は増収となりました。これらにより、医薬品事業の売上高は64億4百万円(前年同期比2億14百万円増)となり、医療用・研究用機器事業の売上高2億21百万円(前年同期比28百万円増)を合わせた当社グループ全体の売上高は66億25百万円(前年同期比2億43百万円増)となりました。

利益面におきましては、主として契約金収入が前年同期比で3億円の減収となった影響により、営業利益は3億74百万円(前年同期比1億95百万円減)、経常利益は3億77百万円(前年同期比1億46百万円減)、四半期純利益は2億10百万円(前年同期比1億14百万円減)となりました。なお、研究開発費は9億89百万円(前年同期比35百万円減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は305億80百万円(前連結会計年度末比16億13百万円増)、負債合計は79億6百万円(前連結会計年度末比15億72百万円増)、純資産合計は226億74百万円(前連結会計年度末比41百万円増)となりました。

流動資産は、有価証券、たな卸資産、未収入金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ13億18百万円増加して155億61百万円となりました。固定資産につきましては、長期前払費用が減少した一方、設備投資によって有形固定資産が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ2億94百万円増加して150億19百万円となりました。

流動負債は支払手形及び買掛金、未払金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べ11億5百万円増加して55億25百万円となりました。固定負債は、長期借入金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ4億67百万円増加して23億80百万円となりました。

純資産につきましては、配当金の支払いおよびその他の包括利益累計額の減少があった一方で、新株予約権の増加および四半期純利益の計上などにより、前連結会計年度末に比べ41百万円増加して226億74百万円となりました。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ4.1ポイント下落して73.7%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ13億78百万円増加して、42億43百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況および主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、11億63百万円（前年同期比26億42百万円の収入増）となりました。これは主に、たな卸資産の増加額2億72百万円があった一方で、税金等調整前四半期純利益の計上額3億68百万円、減価償却費の計上額4億80百万円、仕入債務の増加額6億3百万円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、36百万円（前年同期比4億44百万円の収入減）となりました。これは主に、投資有価証券の取得による支出3億8百万円、有形固定資産の取得による支出2億50百万円があった一方で、有価証券の償還による収入5億円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、1億74百万円（前年同期比1億4百万円の収入増）となりました。これは主に、配当金の支払1億90百万円、リース債務の返済による支出1億40百万円、短期借入金の純減額2億12百万円があった一方で、長期借入れによる収入8億円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期累計期間の業績は、主として「グロウジェクト」の販売が予想を上回ったことにより、当初予想に比べ増収増益となりました。第3四半期以降におきましては、「グロウジェクト」に加え「エポエチナルファBS注JCR」の販売が当初予想を上回る見込みであることなどにより、平成24年5月11日に公表いたしました平成25年3月期連結業績予想を次のとおり修正しております。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	13,400	1,160	1,140	670	21.13
今回修正予想 (B)	13,700	1,250	1,250	720	22.70
増減額 (B-A)	300	90	110	50	—
増減率 (%)	2.2	7.8	9.6	7.5	—
(ご参考) 前期実績 (平成24年3月期)	12,845	1,089	1,005	633	19.75

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる当第2四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	865,961	791,218
受取手形及び売掛金	4,048,373	3,935,015
有価証券	3,200,992	4,234,669
商品及び製品	1,165,546	1,319,331
仕掛品	1,509,147	984,266
原材料及び貯蔵品	2,435,670	3,045,231
その他	1,023,659	1,258,332
貸倒引当金	△6,545	△6,357
流動資産合計	14,242,806	15,561,707
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,488,708	3,363,648
土地	3,602,773	3,602,773
その他(純額)	2,645,762	3,126,828
有形固定資産合計	9,737,244	10,093,250
無形固定資産		
	99,096	98,010
投資その他の資産		
投資有価証券	3,249,966	3,317,049
その他	1,845,768	1,718,364
貸倒引当金	△207,537	△207,537
投資その他の資産合計	4,888,198	4,827,877
固定資産合計	14,724,539	15,019,138
資産合計	28,967,345	30,580,846
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	229,438	833,234
短期借入金	1,973,200	1,924,200
未払法人税等	138,444	206,388
賞与引当金	271,194	328,096
役員賞与引当金	59,500	29,750
その他	1,749,107	2,204,243
流動負債合計	4,420,884	5,525,912
固定負債		
長期借入金	532,000	1,071,100
退職給付引当金	78,582	129,869
その他	1,302,719	1,179,648
固定負債合計	1,913,301	2,380,618
負債合計	6,334,185	7,906,530

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,061,866	9,061,866
資本剰余金	10,779,635	10,777,823
利益剰余金	3,211,907	3,231,794
自己株式	△586,759	△568,952
株主資本合計	22,466,650	22,502,532
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	45,472	14,540
繰延ヘッジ損益	△17,230	△16,265
為替換算調整勘定	40,964	44,882
その他の包括利益累計額合計	69,206	43,157
新株予約権	96,966	128,232
少数株主持分	337	392
純資産合計	22,633,160	22,674,315
負債純資産合計	28,967,345	30,580,846

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	6,382,450	6,625,830
売上原価	1,981,381	2,391,363
売上総利益	4,401,068	4,234,467
販売費及び一般管理費		
販売費及び一般管理費合計	3,831,056	3,860,226
営業利益	570,012	374,240
営業外収益		
受取利息	29,144	17,852
受取配当金	9,514	10,187
為替差益	3,892	—
その他	5,854	15,253
営業外収益合計	48,406	43,293
営業外費用		
支払利息	29,330	25,195
為替差損	—	210
持分法による投資損失	53,240	10,689
その他	12,496	4,270
営業外費用合計	95,067	40,365
経常利益	523,351	377,169
特別損失		
固定資産処分損	1,430	8,795
特別損失合計	1,430	8,795
税金等調整前四半期純利益	521,920	368,373
法人税、住民税及び事業税	222,862	178,030
法人税等調整額	△25,584	△19,825
法人税等合計	197,277	158,205
少数株主損益調整前四半期純利益	324,643	210,168
少数株主利益	63	55
四半期純利益	324,580	210,112

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	324,643	210,168
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△107,055	△30,932
繰延ヘッジ損益	△38,926	965
為替換算調整勘定	4,501	3,918
その他の包括利益合計	△141,479	△26,048
四半期包括利益	183,163	184,119
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	183,100	184,064
少数株主に係る四半期包括利益	63	55

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	521,920	368,373
減価償却費	538,327	480,552
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	5,876	△188
賞与引当金の増減額 (△は減少)	56,874	56,902
受取利息及び受取配当金	△38,659	△28,040
支払利息	29,330	25,195
為替差損益 (△は益)	△3,618	48
持分法による投資損益 (△は益)	53,240	10,689
売上債権の増減額 (△は増加)	△225,468	113,357
未収入金の増減額 (△は増加)	△93,368	△170,124
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△765,087	△272,845
長期前払費用の増減額 (△は増加)	△1,066,732	135,921
仕入債務の増減額 (△は減少)	16,451	603,796
未払金の増減額 (△は減少)	△272,772	36,872
その他	39,150	△96,866
小計	△1,204,534	1,263,643
利息及び配当金の受取額	48,969	37,343
利息の支払額	△29,228	△25,536
役員退職慰労金の支払額	△6,080	—
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△287,351	△111,650
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,478,225	1,163,798
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	100,000	100,000
有価証券の取得による支出	△200,000	—
有価証券の売却及び償還による収入	800,152	500,341
有形固定資産の取得による支出	△169,788	△250,196
投資有価証券の取得による支出	△50,311	△308,156
その他	1,338	△5,050
投資活動によるキャッシュ・フロー	481,390	36,937
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	608,000	△212,000
長期借入れによる収入	—	800,000
長期借入金の返済による支出	△84,000	△97,900
リース債務の返済による支出	△154,512	△140,077
自己株式の純増減額 (△は増加)	△106,844	14,890
配当金の支払額	△193,226	△190,672
財務活動によるキャッシュ・フロー	69,416	174,241
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,861	3,880
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△924,557	1,378,858
現金及び現金同等物の期首残高	2,812,143	2,865,105
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,887,586	4,243,963

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

該当事項はありません。

4. その他

研究開発品目

1. 医薬品

開発番号（一般名）	開発段階	適応症等
		備考
J R - 4 0 1 S (遺伝子組換えソマトロピン)	平成24年8月 承認取得	子宮内発育遅延性低身長 グロウジェクト効能拡大 自社開発
J R - 0 4 1 (遺伝子組換え卵胞刺激ホルモン)	臨床 第Ⅱ/Ⅲ相試験 準備中	不妊治療 完全無血清培養技術による生産 あすか製薬株式会社へ導出
J R - 0 3 2 (遺伝子組換え イズロネート-2-スルファターゼ)	国際共同 治験準備中	ハンター症候群（ライソゾーム病） 酵素補充療法 完全無血清培養技術による生産 グラクソ・スミスクライン・グループと共同開発
J R - 0 5 1 (遺伝子組換え α-ガラクトシダーゼA)	国際共同 治験準備中	ファブリー病（ライソゾーム病） 酵素補充療法 完全無血清培養技術による生産 グラクソ・スミスクライン・グループと共同開発
J R - 1 0 1 (遺伝子組換え グルコセレブロシダーゼ)	前臨床	ゴーシェ病（ライソゾーム病） 酵素補充療法 完全無血清培養技術による生産 グラクソ・スミスクライン・グループと共同開発

(語句の説明)

完全無血清培養： 遺伝子組換え医薬品の培養工程においては、一般的に細胞を増殖させるためにウシ血清が用いられる。完全無血清培養は培養過程でそれらの血清を一切使わないで培養すること。従って、ウシ血清を含まないため精製工程が簡素化され高生産性が期待できる。

ライソゾーム病： ライソゾームとは細胞内にある種々の代謝酵素を有する器官のことで、この中の特定の酵素が欠損して代謝されるべき物質が分解されずに蓄積することにより種々の症状を呈する疾患。欠損している酵素の種類により種々の疾患があり、現在ハンター症候群、ファブリー病を含め約30種類が知られているが、いずれの疾患も患者数は少ない。

2. 細胞治療

開発番号（利用細胞名）	開発段階	適応症等
		備考
J R - 0 3 1 (ヒト間葉系幹細胞)	臨床 第Ⅱ/Ⅲ相試験	骨髄移植に代表される造血幹細胞移植時の合併症である移植片対宿主病（GVHD）の抑制 米国オサイリス社より技術導入 他家由来ヒト間葉系幹細胞の利用

(語句の説明)

ヒト間葉系幹細胞： 主に骨髄中に存在するiPS細胞やES細胞と同様の未分化な細胞。骨、軟骨、脂肪、筋肉など様々な細胞系に分化する能力を持つ。患者自身の間葉系幹細胞を利用するのではなく、健常人から採取したものを培養して薬として不特定多数の患者に投与できる。免疫調節機能を有するため、免疫が関与する様々な疾患に有効な可能性がある。

GVHD： 造血幹細胞移植などでドナーから移植された臓器の免疫担当細胞が、移植を受けた患者の組織を異物とみなして攻撃する病態で、体内に入ってきたものを異物とみなして攻撃する通常の免疫反応（拒絶など）と裏返しの反応である。造血幹細胞移植においては最も重篤な合併症の1つである。